

(様式1)

ながのまちづくり活動公開審査申込書

申込年月日	平成23年2月10日	受付番号	11
活動部門・コース	1 企画・研究部門	2 <input checked="" type="checkbox"/> 実践活動部門	<input checked="" type="checkbox"/> ①ホップコース (スタート枠) <input type="checkbox"/> ② ホップコース <input type="checkbox"/> ③ ステップコース <input type="checkbox"/> ④ ジャンプコース
団体の名称	(フリガナ) シミンキシャネットナガノ 市民記者ネット長野		
団体の所在地			
代表者	(フリガナ) カワサキ シロウ 氏名 川崎 史郎		
連絡先 (連絡責任者)			
団体の設立年月日	平成23年1月1日		
設立目的	1) 市民が記者(詳細は後述)となり、プロのライターや編集者と一緒に歩いて、市民目線で長野市の魅力を取材、発表する。対象は飲食店や地元で活躍する人、隠れた名所、特産品など。この活動を通して、地元通で情報発信の達人である市民を養成する。そして、情報の入手や発信などに精通した市民を多数輩出することで、情報を通じた街づくり、街の活性化を実現していく。 2) 市民記者が街で活躍する人と出会い、話を聞くことを通して、立場や世代を超えた交流、街を知る場として活用する。この取り組みによって市民が長野の魅力を再発見することで、既存スポットや歴史的資産を活用した街づくりを考え、提言する。 3) 取材した情報はインターネットを通して全国に発信するほか、雑誌やマップにまとめて書店や公共機関、観光案内所などに配布(一部は販売)する。加えてテレビ、新聞、雑誌といった既存のメディアも巻き込み、幅広い情報発信を実現する。		
活動実績			
構成員(会員)数	5人		

活動のタイトル	市民記者ネット長野～街の魅力を探そう～	
活動の目的及び達成目標	<p>活動の目的</p> <p>市民が記者となり、市内を拠点とするプロのライターや編集者と長野の街を歩き、取材し、発表する。市民記者は取材でなければ知りえない事柄に触れることで、街により詳しくなり、街の魅力や可能性、さらには問題点をも発見。効果的に情報を発信する方法も会得する。そして、経験を積んだ市民記者が経験や手法を広めることで、幅広い市民が地元通、情報発信の達人である街を目指す。この活動を進めることにより、情報を通じた街づくり、街の活性化が実現する。</p> <p>今年度の達成目標</p> <p>1) 将来的に活動の中核となる市民記者を養成…取材や執筆経験のない市民が記者として活動できるよう、取材から執筆、制作までを一貫して体験してもらう。</p> <p>① 街中を歩き、実際の取材活動を体験…地域の人と歴史、スポット、特産品を重点的に取材や執筆を展開。イベントも開催する。初期段階は主催者が取材対象を設定する。</p> <p>② 取材結果はホームページ (HP) などに掲載…HP には1週程度で掲載し、冊子なども作成して配布。市民や観光客に長野の魅力を知ってもらう。</p> <p>2) 勉強会や発表会の開催…取材や執筆、写真撮影について勉強し、成果を発表する。</p>	
活動の具体的内容	<p>毎月、長野駅の周辺～善光寺を中心に調査や取材、イベントを開催する</p> <p>市民記者は公募市民のほか、学生や街づくり、子育て、環境、映像愛好家などの団体のメンバーが中心。活動を展開するにあたっては、取材対象の区や商工会、公的な機関に支援してもらうことで、地域を巻き込んだ活動に広げていく。取材にあたっては、市内のライターや編集者に加えて、取材地域の住民や専門家が案内役として付き添う。</p> <p>1) 街中取材 (10人×10回=100人)…主催者と関係者が相談して決めたテーマに沿って、市民記者がエリアを歩いて取材。取材対象だけでなく地域の人と話をすることで、交流を深め、街に詳しくなり、活動の幅がより広がっていく。</p> <p>2) 取材、文章教室 (10人×5回=50人)…取材の参加者のほかブログなどで情報発信したい人、文章力を上達させたい学生や社会人、自費出版を目指す人らが対象。プロが培ってきた取材の方法や文章の書き方、写真の撮り方を伝授する。</p> <p>3) イベント (合計130人)…講演会 (30人×2回=60人)、ウォーキング (20人×2回=40人)、発表会 (30人×1回=30人)</p> <p>4) まとめ (合計200人)…街中調査、取材で集めた情報をホームページに記事として掲載。一部は冊子 (初版1000部) として新たな情報を加えて、編集する。</p> <p>5) 継続的な活動への取り組み…記事を掲載するHPアクセス数を増やすことで、広告媒体としての価値を高める。目標は1日1000の新規アクセス。冊子には地域の企業や商店に広告掲載してもらう。加えて活動に協賛してもらうよう働きかける。</p>	
年次計画	<p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p>	<p>・ホームページ (以下、HP) 1 (立ち上げ) ・取材教室①</p> <p>・街中取材 (1) ・ウォーキング① ・HP 2 (更新)</p> <p>・街中取材 (2) ・取材教室② ・HP 3 (更新)</p> <p>・街中取材 (3) ・講演会 (一) ・HP 4 (更新)</p> <p>・街中取材 (4) ・取材教室③ ・HP 5 (更新)</p> <p>・街中取材 (5) ・冊子 I (取材) ・HP 6 (更新)</p> <p>・街中取材 (6) ・取材教室④ ・冊子 II (制作) ・HP 7 (更新)</p> <p>・街中取材 (7) ・ウォーキング② ・冊子 III (制作) ・HP 8 (更新)</p> <p>・街中取材 (8) ・取材教室⑤ ・冊子 IV (制作) ・HP 9 (更新)</p> <p>・街中取材 (9) ・講演会 (二) ・冊子 V (完成) ・HP 10 (更新)</p> <p>・街中取材 (10) ・HP 11 (更新) ・年次報告の作成、次年度の準備</p>

<p>期待される地域や社会への具体的な効果・成果</p>	<p>1) 情報を通じた街づくりを目指し、市民みんなが地元通、情報発信の達人となるため、市内在住のライターや編集者と幅広い市民が情報発信の方法を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> 中御所区と第五地区住民自治協議会、杏花台区と一緒に活動を進めることで、地域リーダーをはじめ幅広い市民が情報発信の必要性を認識ようになる。 地域住民が情報への意識を高めることで、所属する団体または個人で、より主体的で効果的な情報発信や広報活動ができるようになる。 活動を通して、地域で情報教育が行われるようになる。 これまでの新聞や雑誌、テレビなどによる情報発信は、受け手（市民）と送り手（新聞社や出版社、テレビ局）が明確に分かれていた。この活動によって、市民が情報発信に携わり、市民の感覚が反映した媒体をつくることができる。 <p>2) 市内を取材した内容に加え、取材時に市民目線で気づいた課題や自分たちで考えた改善策を紹介することで、幅広い市民に街づくりへの意識を喚起していく</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に地域を歩いて情報を探し、発信することで、地域への関心が深まり、自分の街への愛着心が強くなる。 地域の有形無形の魅力や財産を知ることができ、街の将来を考える指針となる。 <p>3) 取材、調査を基に作成した冊子の配布、インターネットでの情報発信を通して、市民のほか、長野を訪れる（訪れたい）観光客に街の魅力を知ってもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館や商店、観光案内所に冊子などを配布するほか、これから長野を訪れる人にはホームページを通して情報を知ってもらう。 市民記者が活躍している松本市などとの交流を深めていく。
<p>団体又は活動のアピール</p>	<p>1) 市内に在住し、市内を拠点に活動するプロのライターや編集者らが集まった会</p> <ul style="list-style-type: none"> 会員はライターや編集者が中心で、全員が情報発信のプロ。さらに各会員は年齢や得意分野が異なるので、特性や人脈を生かした街づくりを提供していける。 <p>2) 情報という視点でとらえた長野市の街づくりを市民の立場から提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞や雑誌、情報サイトなど、身近な話題を提供する媒体はあふれているが、市民が主体となって取材、編集されるものは少ない。プロのライターや編集者が技術面を支援することで、正確で分かりやすい情報を提供できる。 <p>3) 長野ふれあいビデオクラブや日本野鳥の会長野支部、育児支援ねっと信州、おはなしポケット、戸隠エコネットワークなどの団体が事業を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 活発に活動する団体の幅広い支援を受けることで、情報収集やネットワークを活用することができ、市民記者の活動の幅を広げ、長期にわたり事業を継続できる。
<p>次年度以降の活動内容の概要 （来年度以降も本事業に応募を希望する場合に記入）</p>	<p>第2年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 初年度に活動した市民記者を中心に活動を組織化する。観光、子育て、野鳥観察などジャンル別のコーナーを設けて、旬の情報を提供していく。 初年度の事業を継続して実施。対象エリアを広げ、携帯サイトを開設する。 読者数を拡大することで、広告媒体としての価値を高め、自立した事業とする。 <p>第3年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民記者が自立、永続した活動ができるよう、人材育成を含めた態勢を整える。 特集企画を充実。また、取材を通して出会った人を講師に公開講座を開設する。 インターネットの広告に加えて、地元企業や団体からの協賛してもらう。
<p>事業の最終目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 市民が主体となった情報サイトや雑誌を発行することで、市民が地元通、情報発信の達人となり、情報を通じた街づくり、街の活性化を実現する。加えて、情報への意識が高く、発信する技術を持った人材を育成し、誰でも本格的な情報発信ができるよう環境整備を進めていく。 情報サイトや雑誌を中核とした市民記者の事業が収益性を高め、永続させる。